

確かな学力を身に付けた東っ子の育成

～新聞を活用し、読み取る力を育てる指導のあり方～

川南町立東小学校
教諭 大出水 光 次

1 はじめに

本校は児童数125名で平成26年度よりNIE実践校として指定を受け、本年度2年目となった。NIEの指定を受ける前から積極的に児童の作品・作文等を新聞へ投稿するなど、児童の学習の関心意欲を高める手立ての一つとして新聞の活用は実践してきた。2年目の本年度は、新聞のさらなる活用を通して、各学年に合った読み取る力を育てるための実践を考えていくことにし、NIEの実践に取り組むことにした。

2 学校としての取組

(1) 職員研修の実施

新聞をあらゆる場所、いろいろな教科で活用していけば、新聞に親しみを感じ、学校以外の環境でも読んだり見たりする意欲が高められると考えた。NIE実践指定校として2年目の本年度は、具体的な実践をしていく前に、全校的な取組として、全教職員で共通理解し、共通実践していくためにも、職員研修を実施し、NIEに対する考えを深めていくことにした。

本年度、教職員の移動で半数の入れ替わりがあり、昨年度の様子がつかめないのが、昨年度の実践を振り返った。そして本年度は、昨年度の実践を繰り返し実践していく上で、1人1実践を目指すことにした。

新聞の活用について、全教職員で話し合う中で、これまでの経験を生かし様々な意見、活用の仕方が出てきた。今後、それぞれのアイデアを実践していくことにした。

さらに、本校の校内研究（「確かな読解力」を身に付けた東っ子の育成～説明的文章教材を中心とした国語科学習指導法の工夫を通して～）の言語感覚を磨き、主体的に文章を読もうとする態度の育成のための言語環境を整えるためにもNIEの実践が効果的と考え、並行して取組を進めていった。

(2) 今日の新聞「トップニュース」

毎朝、新聞の中から担当職員が児童に読ませたい・読んでもらいたい新聞記事を選んで、各クラスに配付するという取組をした。内容は、児童にとって身近なものや世間で話題になっているもの、季節にあったものなどを選ぶようにした。

学年	年	教科名	時間	内容
第5年				
ねらい				
新聞活用ポイント				
学習時間				
反省点				
児童の反応				
活用状況と感想	<input type="checkbox"/> 効果 <input type="checkbox"/> 効果			

【NIE実践を記入する用紙】



【トップニュース掲示】

記事については、担任が読み聞かせをしたり、内容を分かりやすくかみ砕いて説明したりするようになった。紹介した後は、教室内に掲示し、児童が自由に読めるようにした。

(3) スキルタイムの活用

本校では、朝の時間に「スキルタイム」と称して学力向上に向けた学習指導の時間（20分間）が設定されている。文章を読むことに慣れさせ、自分で文章の内容を正確に読み取る力を付けさせるためにNIEの時間を設定し、活用を図った。

月	火	水	木	金
読書 NIE	読解（短文） NIE	※読み聞かせ 全校朝会 教育相談等	Web学習 算数の基礎学習	読む力の問題集 または、短文 百人一首

○ 小見出しを考える学習

ア 一つの記事の切り抜きを準備する。ただし、小見出しの部分を隠す。

イ この記事に合う小見出しを考える。

- ・はじめは、教師の準備した3～5の選択肢の中から一つを選ぶ。

- ・自分の力で考える段階へ進む。

○ 朝の会の「1分間スピーチ」のための記事選定

学級での朝の会の「1分間スピーチ」で気になる記事を選び、そのことについての意見や話すための原稿を考える時間として活用した。



【スキルタイムの様子】

(4) その他

昨年度の実践で効果があったのではないかとと思われるものを本年度も実践していった。

○ 新聞置き場と整理

- ・掲示委員会の児童が届いた新聞をラックに取り付け、誰でも読める環境を整えた。その後、職員室前に各新聞ごとに分けて整理・保管し、授業やスキルタイム、資料として使いやすいようにした。

○ 毎日の新聞掲示

- ・毎日、新聞の中から掲示委員会の児童が、気に入った記事や読んでもらいたい記事を、低・中・高学年に合わせて選び、靴箱の横の壁に掲示した。

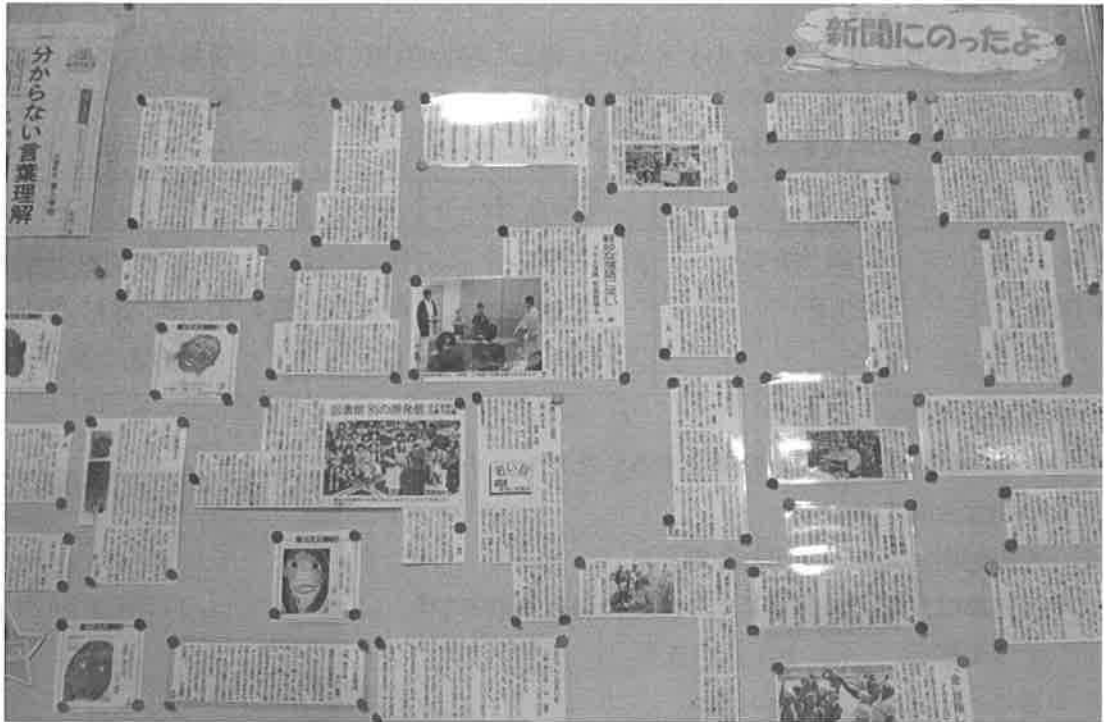


【新聞を読む児童】

○ 新聞への投稿

- ・毎日の生活の中で、学習の中で学んだことや感じたこと、体験したことなどを書く活動に取り組みさせてきた。初めの頃は、なかなか難しかったようだが、少しずつ自分の思いを表現することができるようになってきた。児童が体験して感じたことや考えたことを素直に表現した作文や絵などを新聞に掲載する取組を定期的に行った。投稿した作文や絵が掲載されるとそれを見て喜ぶ児童の姿が見られた。

学校の『東っ子ニュース』の掲示コーナーでは、新聞に掲載された児童だけではなく、他の児童も興味・関心をもって掲載された作文や絵、学校の記事などを見つめ、さらに意欲をもって自分の気持ちを表現しようと意気込む様子が見られるようになった。



【新聞に掲載された作文や絵などの一部】

3 実践事例

各学年の発達段階を考慮し、単元のねらいに即した内容のもと、1人1実践の授業を実施した。

(1) 第4学年理科での授業実践

ア 単元名 「ノーベル賞と理科学習」

イ ねらい

ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智氏の新聞記事の読み取りを通して、多くの人命を救った功績を理解するとともに、身近に存在する細菌を調べることが素晴らしい研究につながることを知り、理科学習の大切さに気付く。

ウ 新聞活用のポイント

新聞の速報性を生かすことで児童の興味・関心を高めるとともに、読み取り箇所を限定して取り扱うことにより内容を理解しやすくした。

エ 実践内容

○ 学習活動（1時間）

1 導入

- 大村智さんの写真を見て、誰なのかを考えさせる。
- 新聞の記事を提示し、写真の人は大村智さんであること、先日ノーベル賞を受賞した人であることを確認する。

2 展開

- 新聞記事を使って、ノーベル賞はどんな賞なのか調べる。
- イベルメクチンとは何かを考える。
- 新聞からイベルメクチンについて分かったことを発表する。

- 大村智さんがしたことについて話し合う。
- 大村智さんはどんな人か、新聞記事から読み取って発表する。
- 身近な寄生虫を紹介し、理科学習とのつながりを考える。

3 まとめ

- 大村智さんの功績について振り返り、感想を書く。

オ 留意点

- 普通の新聞では読解が難しいので、子ども新聞の記事を使用する。
- 新聞記事は一度に全てを見せず、必要な部分を分割して提示する。
- 記事だけでは困難だと思われる部分については、映像資料などの補助資料を準備し、児童の理解を助ける。

カ 児童の反応

- 話題の人物を取り上げたことで、児童は意欲的に学習に取り組んだ。
- 子ども新聞を使用したことで、自力で読み取りを行うことができた。
- 写真や映像などの補助資料を活用したことで、難解な用語等への抵抗感が和らぎ、十分理解した上で学習を進めることができた。
- 児童の感想を見ると、理科の授業で行っている実験や観察が、すばらしい研究への第一歩だということに気付いた児童が少なくなかった。

キ 授業実践の成果と課題

<成果>

- 話題となっている新聞記事を教材として活用することで、児童の学習意欲を高めることができた。また、新聞記事は一度に全てを見せず、必要な部分を分割して提示する方が有効であることが分かった。

<課題>

- 今秋は、大村智さんの研究の内容を中心に扱ったが、人柄をもっと取り上げるべきだったと感じた。

4 おわりに

2年目の本年は、全教職員が1人1実践に取り組んで新聞の活用に取り組むことができた。国語科に取り組む実践が多かったが、理科や社会にも取り組むことができた。さらに道徳にも取り組むきっかけができた。1人1実践で共通する成果や課題が以下に示すことであった。

<成果>

- 実際の新聞を活用したことで、新聞を身近に感じ、興味をもち、意欲的に学習に取り組んでいた。
- 授業後も、似たような記事や内容に興味を示す児童がいた。
- 語彙力が乏しいことを考慮し、子ども新聞を活用したことで内容の理解が進んだ。

<課題>

- あらかじめ教師が内容を確認し、ある程度選定しておく必要性を感じた。
- 子ども新聞でない場合は、言葉や内容など難しいので文章の理解に時間がかかるため、取り扱う場合は事前の準備が相当必要となる。

これらの成果や課題を考慮しつつ、次年度のNIE活用を積極的に取り組んでいきたい。